

(電子メール施行)  
農技第1704号  
平成28年 3月18日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第8号を發表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第8号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	<b>菌核病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
	コナガ	やや少	少
春レタス	<b>菌核病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	<b>灰色かび病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
	ハモグリバエ類	やや少	少
タマネギ	<b>べと病</b>	<b>多</b>	<b>多</b>
	<b>白色疫病（早生）</b>	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	<b>細菌性病害</b>	<b>やや多</b>	平年並
	ネギアザミウマ	やや少	少
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
	<b>灰色かび病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	やや少	やや少
	<b>ハダニ類</b>	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>

## 近畿地方 1か月予報（3月19日から4月18日までの天候見通し）

平成28年3月17日  
大阪管区气象台 発表

### <特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の変動が大きく、24日頃からの気温はかなり低くなる可能性があります。

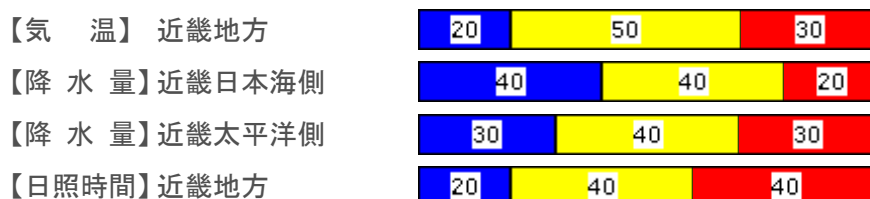
### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率50%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

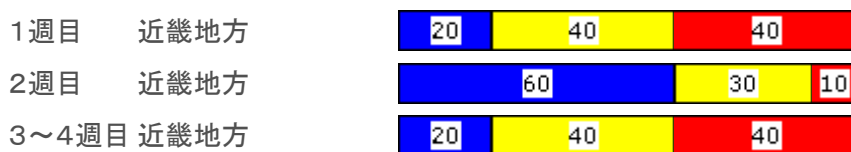
週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、低い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い

### <予報の対象期間>

- 1か月 : 3月19日(土)～ 4月18日(月)
- 1週目 : 3月19日(土)～ 3月25日(金)
- 2週目 : 3月26日(土)～ 4月 1日(金)
- 3～4週目 : 4月 2日(土)～ 4月15日(金)

\* 発生概況及び防除対策上の留意点

## 春キャベツ

### 1 黒腐病

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の現地調査等において、発生は認められなかった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、発病は増加すると考えられる。

### 2 菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の現地調査等において、発生ほ場を確認した。平年に比べやや早い発生であった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、発病は助長されるものと考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 発病株を見つけたら、新たな菌核をつくらないうちには場外に持ち出し、処分する。
- イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
- 兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

### 3 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の現地調査等において、発生を認めなかった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、今後発生すると考えられる。

### 4 コナガ

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の現地調査等において、発生を認めなかった。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、今後発生すると考えられる。

## 春レタス

### 1 菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 3月上旬の現地調査等において、発生を認めた。
- イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、発病が助長されるものと考えられる。

## 2 灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等において、平年並みの発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されているが、生育が進みトンネル内の結露が多くなるため発病が助長されるものと考えられる。

## 3 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等において、発生を認めなかった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、今後発生すると考えられる。

## 4 ハモグリバエ類

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等においては、発生を認めなかった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、今後発生すると考えられる。

# タマネギ

## 1 ベと病

(1) 予報の内容 発生量：多

詳細は、平成28年3月16日付病害虫発生予察注意報第3号 (<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)を参照のこと

## 2 白色疫病

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等では、早生品種での発生ほ場率15%、発病株率3.55%とやや多い発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、発病は現況で推移すると考えられる。

## 3 細菌性病害

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等において発生ほ場率10.0%、発病株率0.25%と平年並みの発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、発病が助長されると考えられる。

#### 4 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の現地調査等において、発生は認められなかった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、密度は増加すると考えられる。

### イチゴ

#### 1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の県予察ほおよび病害虫防除員調査において、平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、今後発病は平年並で推移すると考えられる。

#### 2 灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の県予察ほおよび病害虫防除員調査においては、平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、今後発病が助長されると考えられる。

#### 3 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の県予察ほおよび病害虫防除員調査において、平年に比べやや少ない発生であった。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温、降水量とも平年並と予想されており、春期の気温上昇に伴い、発生状態はこのまま継続すると考えられる。

#### 4 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の県予察ほおよび病害虫防除員調査において、平年に比べやや多い発生であった。

イ ハウス内では気温の上昇に伴いハダニ類が増殖しやすい環境になる。

ウ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されており、発生状態は継続すると考えられる。

**\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)**